

金融に関する意識による分類と ICT 利用行動の特徴

○小島 誠也・水野 一成（NTT ドコモ モバイル社会研究所）・

桑津 浩太郎（立命館大学）・廣瀬 通孝（東京大学名誉教授）

キーワード：金融意識，スマートフォン，ICT，ライフスタイル

1. 背景

デジタル化が進み ICT が日常生活に浸透する中で、金融に関する態度や行動も変容しつつある。近年では、フリマアプリやキャッシュレス決済、投資アプリの利用など、個人の金融行動に ICT が密接に関わっている。本研究では、お金に対する意識をもとに人々を分類し、その分類と ICT の利用行動やライフスタイルの関係性を明らかにすることを目的とした。

2. 方法

調査概要： 全国の 15～79 歳の男女を対象に、性・年代・居住地で人口分布に比例して割付し、Web 調査により 7371 サンプルを収集した。（2025 年 2 月）

手続き： 先行研究をもとに作成したお金に関する 18 の意識項目に基づき、4 件法による回答を得て因子分析を実施した。その結果得られた 4 因子（「お金との関係良好」「お金は善」「お金は悪」「購買意欲」）を用いてクラスタ分析を行い、5 つのクラスタを抽出した。さらに、それぞれのクラスタにおける ICT 利用行動傾向やライフスタイルの違いを多角的に分析した。

3. 結果

因子分析により抽出された 4 因子をもとにクラスタ分析を行った結果、5 つのクラスタが得られた。「バランス」は金銭管理と購買意欲の双方に優れ、ICT 利用行動も積極的である。「貯蓄」は購買意欲は控えめながら金融知識が高く、計画的に資産を管理する傾向がある。「低関心」は金銭や ICT への関心が全般的に低く、ICT 利用行動も限定的であった。「消極」はお金に対して否定的な印象を持ち、ICT 利用行動も慎重である。「浪費家」は購買意欲が強い一方で金銭管理に課題があり、ICT を活用した消費行動は活発だが、金融知識や学習経験には乏しい特徴が見られた。各クラスタで金融サービスや ICT の利用傾向に明確な違いが確認された。

4. 考察

本研究から、お金に対する意識によって ICT や金融サービスの利用行動に大きな差があることが明らかになった。たとえば、「バランス」はタブレットや SNS を通じ

た情報収集も積極的であり、比較的高齢層にも見られる点が興味深い。また、「浪費家」のように ICT には親しみがあがるが、金融リテラシーが低く学習経験も乏しい層も存在し、今後の金融教育施策の重要性が示唆される。ICT を活用した適切な金融行動の促進には、こうしたクラスタ特性を踏まえた支援が必要である。

表 1 因子分析結果（最尤法、Promax 回転）

設問	因子			
	お金との 関係良好	お金は善	お金は悪	購買意欲
うまくお金をためられている	.82	-.02	.02	-.03
うまくお金を使えている	.81	.01	-.02	-.02
自分のためになるお金の使い方ができている	.74	.05	-.02	.02
将来のために資産の計画を立てている	.72	.02	.01	-.03
同世代の（まわりの）人に比べて金融知識がある	.66	-.06	.03	.05
お金があると、心が豊かになる	.02	.71	-.07	.04
結局は、お金がものをいう	-.06	.68	.14	-.05
お金は、自立と自由を与えてくれる	.06	.68	-.04	-.01
お金は、あればあるだけよい	-.09	.66	-.04	.00
いろいろな問題は、お金で解決できると思う	.07	.55	.07	.00
お金は、人との関係によくない影響を与える	.02	-.00	.72	.01
お金は、人を不幸にする	.04	-.15	.68	.04
お金は、人を意地汚くする	-.02	.08	.68	.02
お金は、いざこざの原因だ	-.01	.12	.68	-.02
買い物をするストレスが解消される	.00	.05	-.02	.80
買うものがなくても買い物に行きたくなくなる	.04	-.10	.07	.65
買い物は楽しい	.07	.14	-.09	.63
衝動買いをよくする	-.12	-.08	.08	.57
Cronbach's α	.86	.79	.78	.76

表 2 クラスタ分析結果

因子	クラスタ				
	バランス	貯蓄	低関心	消極	浪費家
お金との 関係良好	0.85	0.59	0.05	-0.64	-0.93
お金は善	0.14	0.37	-1.15	-0.11	0.95
お金は悪	0.49	-0.99	-0.55	0.33	0.62
購買意欲	0.59	-0.22	-0.54	-0.46	0.80
n	1627 (22.1%)	1343 (18.2%)	1416 (19.2%)	1825 (24.8%)	1160 (15.7%)

引用文献

[1] Tang, T. L.-P. (1995). The development of a short Money Ethic Scale: Attitudes toward money and pay satisfaction revisited. *Personality and Individual Differences*, 19(6), 809–816.